

■石本平兵衛 天草の豪商。江戸時代の地方にあって、商才を発揮して様々な障壁を乗り越え頂点極めるも、悲惨な最期。

いしもとへいべえ

寛政改革始・1787= 天草御領村で、金融業ほか手広く営む石本家第四代勝之丞の子に生まれる。母は勢以。幼名胤治。
・ ・ ・ ・ ・ 1788= 1歳：弟熊四郎が誕生。
初の横綱・1789= 2歳：妹都恵が誕生。母方の祖父が死去。
異学の禁・1790= 3歳：神童ぶりを発揮し、〔正倫社〕で学び始める。

フクサン来日・1792= 5歳：この年、普賢岳が大爆発し大災害もたらすが(島原大変)、それを契機に石本家がさらに発展、
松平定信引退1793= 6歳：この年、長崎石本家と天草石本家と本末関係が確認され、今後の協力について盟約。
ワヅガ 正月・1794= 7歳：母が死去。

ポルト来航・1796= 9歳：父が於延と再婚、この年の施行「百姓相続方仕法」にも積極的に協力。〔正倫社〕を終え、長崎に留学。
昌平饗始・1797=10歳：この年、父が幕府から褒賞受ける。
出島のオランダ通詞の雑用係となってオランダ語に上達し、商館員らと交流、唐人屋敷に出入りし、私塾にも通い、さらには長崎会所で幕府の制度や実務を学んで、急速に豪商としての下地を身につけて行き、

宣長没・ ・ ・ 1801=14歳：父に家業継ぐことを申し出、長崎本家(阿部屋)で修業することになり、
天草と長崎を往来してさらに商才を磨いて行く。

レザノ来航・1804=17歳：ロシア使節レザノフが漂流民を護送して長崎に来航。家督を相続し五代目勝之丞を襲名。
青洲麻酔手術1805=18歳：幕府は目付遠山景晋を長崎に派遣、レザノフは長崎退去。
レザノ報復・1806=19歳：島原本多家の和歌と結婚。屋敷の土蔵の盗難事件が発生、解決に向けて多額の金をばらまくことになり、
シラ船狼藉・1807=20歳：長男勝三郎が誕生。

間宮海峡発見1808=21歳：長女エツが誕生。父の後妻於延が死去。
浮世風呂・ ・ ・ 1809=22歳：以降八年間、ナポレオン戦争のためオランダ船の長崎来航が中断。
・ ・ ・ ・ ・ 1810=23歳：この年伊能忠敬が天草を測量。次女ジツが誕生。祖母が死去。兄平八郎の分家を決定。父が順と再々婚。
ゴロポン拿捕 1811=24歳：次男勘十郎が誕生。

高田屋拿捕・1812=25歳：この年、水野忠邦が家督を相続、
浮世床・ ・ ・ 1813=26歳：三男辰之進が誕生。盗難事件に関して、父とともに手鎖をかけられ郷宿に拘禁され、
黒住教・ ・ ・ 1814=27歳：四男寛吾が誕生。祖父が死去。*仮釈放となった父が庖瘡で死去後、桜町の牢に収監され、佐伊津村に居村
私となるなか、唐津藩から財政支援求められ、初入部した水野忠邦と対面、以後その出世を金で支える。

伊能測量終・1816=29歳：佐伊津新宅が完成。大浦村・楠浦村地先干潟約六十町歩の開発工事に着手。この間、本家の経営は悪化、
杉田玄白没・1817=30歳：岡藩御用商人となる。家内諸事儉約の方針を定め、御領本家の権限縮小し佐伊津新宅の権限強化。
水野忠成老中1818=31歳：三女が誕生。長年の懸案だった支店長崎松坂屋家開設。隔年勤務掛屋役に就任。
群書類従刊・1819=32歳：人吉藩蔵米支配を命じられ、長崎松坂屋家屋舗と土蔵二カ所と屋敷を根証文として差し出す。
・ ・ ・ ・ ・ 1820=33歳：五男が誕生。本家継いでいた兄平八郎が死去。人吉藩に本格的な参入を果す。

蝦夷地直轄終1821=34歳：干拓事業見分のため来島した江戸勘定役一行を歓待。長崎代官所が「諸色大間屋株制度」を公布、
英船浦賀来航1822=35歳：綿・芋・油株を引受ける。八代藩にも参入。ついには「唐紅毛取引入札株」を取得。牛深で中国船が難破、
シボ 小来日・1823=36歳：その引揚に成功し、人吉藩主から五人扶持。天草掛屋役専任となる。薩摩藩から球磨茶・芋の取引許可。
シボ 小鳴滝塾1824=37歳：*中国船引揚げなどの功で、幕府から永代苗字を許され、長崎奉行からも褒賞。

異国船打払令1825=38歳：島原藩主から五人扶持。長男に家督を譲り、自らは平兵衛を襲名。
・ ・ ・ ・ ・ 1826=39歳：柳川藩御用商人となる。
日本外史・ ・ ・ 1827=40歳：久留村・楠浦村干拓工事竣工。柳川藩の永治開拓工事が承認される。今泉村大潟・亀浦村浜古・早浦村路木
浜田の薪田汐溜干拓工事五反歩を請負う。薩摩藩の財政改革で登用された調所笑左衛門に接近し、

シボ 小事件・1828=41歳：人吉藩主・佐賀藩主より褒賞。今泉村庄屋株を購入。家内に経費節減を指示。
シボ 小追放・1829=42歳：薩摩藩長崎屋敷の出入商人(館入)となる。
富籤流行・ ・ ・ 1830=43歳：柳川藩より褒賞。薩摩藩御唐物方御用間となり十五人扶持。薩摩藩と覚書締結し、幸徳丸で琉球に渡る。
富嶽三十六景1831=44歳：長年サポートを受けて来た長崎代官高木作右衛門が死去。

鼠小僧磔・ ・ ・ 1832=45歳：*佐賀藩および柳川藩の蔵元を命じられる。薩摩藩の福寿亭建築に膨大なお祝いを献上し、島津重豪米寿祝
賀や落成記念などで褒賞。窮民救済のため粗五百石を毎年江戸に献米する旨を水野忠邦に願い出て、許可され
る。佐賀藩主・柳川藩主より褒賞や病氣見舞い。薩摩藩に銀二百貫目貸与し、年三朱の利子分として米七
十石を支弁の達し。水野忠邦から、長男とともに生涯帯刀を許され、三人扶持。大坂・江戸に支店開設する
など絶頂になるなか、突然病臥、以後急速に体力が衰え、焦りの色が濃くなる。

天保大飢饉始1833=46歳：薩摩藩から八十人扶持。人吉藩主・島原藩主より褒賞。今泉村・早浦村・亀浦村の汐溜開発、一町田村の干
潟開発が完了。柳川藩より知行百石加増。柳川永治下拓工事費三千五百両を融資。幕府から出府命令で、
高島砲術・ ・ ・ 1834=47歳：江戸へ、幕府御勘定所御用達と地元諸役免除仰せ付け、年始ほか諸節お目見えを許される。幕府に初四年
分六千石を一括献上。中国・四国筋の古金銀引替え御用仰せ付け。將軍より褒賞。以後、薩摩藩と軋轢、

滑稽+人情本 1835=48歳：本家継いだ兄莊五郎が死去。許可得て日光参詣後、江戸を立出し、途中古金銀引替え御用を勤めて、
・ ・ ・ ・ ・ 1836=49歳：長崎帰着。古金銀引替え御用のため肥後に赴く。この間、石本家は急速に縮小、悪い噂も立ち始める。
大塩平八郎乱1837=50歳：次男が死去。肥後熊本藩の蔵元を命ぜられる。御勘定所御用達の長男への譲渡を幕府に陳情し、
適塾ホブソ・1838=51歳：認められるが、長崎出店を類焼で失った上、焼失した江戸城西丸再建のため五万両を賦課され、さらに長
男が公家の娘と再婚するのを認めてしまって、大金を失うも、幕府への初献上続けるうち、

蚕社の獄・ ・ ・ 1839=52歳：江戸城西丸の再建が完了。
天保改革始・1841=54歳：*ついに居村払が赦免となって喜んだのも束の間、長男の結婚が島居羅蔵の標的となって、御勘定所御用達
を免じられ、扶持米と帯刀を差し止められ、
天保改革弾圧1842=55歳：長崎奉行所から出頭を命じられて、江戸送りとなり、代官所付き添いのもと長男ほか従者五人と江戸に到
着、入牢となる。長男は死去。

順天堂始・ ・ ・ 1843=56歳：小伝馬町の獄屋に入れられ、容態が悪化し、没した。